

学位論文の内容の要旨

専攻	分子情報制御医学	部門	病態制御医学
学籍番号	12D742	氏名	西山 典子
論文題目	Efficacy and safety of over-the-scope clip: including complications after endoscopic submucosal dissection.		

(論文要旨)

【背景】歴史的に、標準的な消化管穿孔にける治療法は外科手術であった。近年、外科治療に変わりうる治療として粘膜下層剥離術(ESD)やLECSの様な内視鏡治療が出てきた。我々の最近の試みとして、LECSへ全創縫合器の様な新たな危機開発を行っている。しかしながら、内視鏡治療における合併症に対する簡便で、安全な機器が少ないのが現実である。全創縫合器であるOver-the-scope clip(OTSC)の登場と共に、欧州では消化管出血、穿孔、瘻孔へ使用され、その使用経験や価値が報告されて来た。2011年11月より本邦でも、OTSCの薬事が認可された。当院では認可と同時にOTSCを使用して来ており、当院での使用結果をまとめて報告する。またOTSCのESD後穿孔への完全縫縮における有用性を報告する。

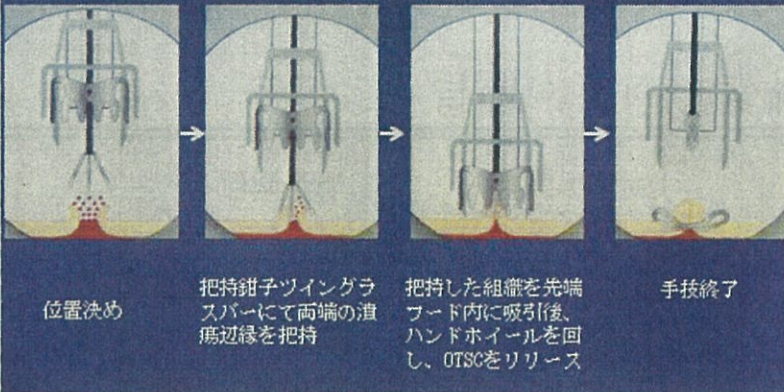
【目的】当院香川大学病院における、OTSCの使用結果及びESD術後穿孔への治療の可能性について、後ろ向き検討を行う。

【方法】当院にて、2011年11月～2012年9月までに消化管出血、瘻孔、穿孔へOTSCを使用した23人を対象とした。創部最大径は創部長径と定義した。OTSCの使用数は創部を完全縫縮するまで使用した。病変辺縁を把持するため全症例にツイングラスパーを使用した。食道、大腸には9mm径クリップを、胃、十二指腸、直腸には10mm径クリップを使用。縫縮成功率や合併症を評価した。臨床的な縫縮成功率はOTSCのみにて完全に縫縮できた症例を検討した。すべてのOTSCは十分なICの基、二人の医師で行われた。ESD後穿孔におけるOTSCの使用部位は、穿孔口のみならず、潰瘍底ごと縫縮を行った。

【結果】OTSC使用患者は合計23人、平均年齢は77歳であった。使用症例内訳は、消化管出血9例、穿孔10例、瘻孔4例、十二指腸ESD後に予防縫縮した症例1例であった。一人は、グリセリン浣腸後、穿孔しその後瘻孔を生じた症例であった。OTSCだけ使用し、完全縫縮成功した症例は19例であり、全体の82%であった。不成功に終わった主な要因として、20mm以上の巨大な創部や、1週間以上の慢性期症例が挙げられた。不成功に終わった症例の場所はすべて胃であった。平均術時間は18分、平均観察期間は67日であった。観察期間内において、OTSCを使用した事による合併症は認めず。またESDに使用した6例すべて、OTSCにて縫縮は成功した。

【結語】OTSCは消化管出血、穿孔、瘻孔に有用である。またESD後穿孔にも有用である。

使用手技



位置決め

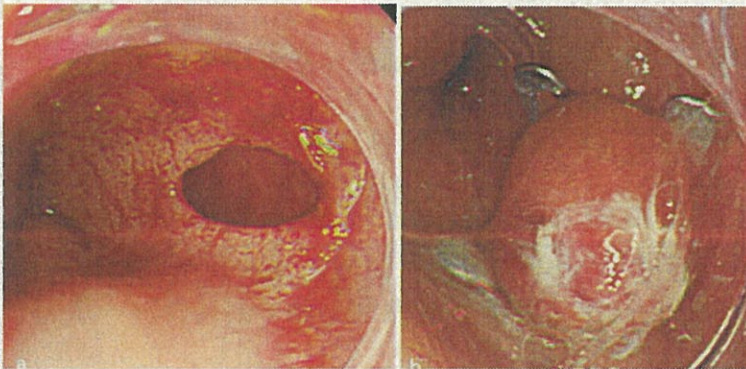
把持鉗子ツイングラスパーにて両端の潰瘍辺縁を把持

把持した組織を先端フード内に吸引後、ハンドホイールを回し、OTSCをリリース

手技終了

● Relationship between each characters and overall clinical success rate

	Patients (no.)	Overall clinical success (no.)	Overall clinical success (%)
Location			
Esophagus	1	1	100
Stomach	10	6	60
Duodenum	5	5	100
Colon	3	3	100
Rectum	4	4	100
Primary disease			
GI bleeding	9	7	77
Chronic fistulae	4	3	75
Perforation	11	10	90
Maximum lesion size (mm)			
<20	9	9	100
20~30	8	6	75
>30	6	4	66
Time from diagnosis (week)			
<1	18	18	100
1~4	3	0	0
>4	2	1	50



胃管挿入後の食道穿孔を OTSC にて縫縮

掲載誌名

Oncology Reports

第 30 巻, 第 1 号

(公表予定)

掲載年月

2013 年 5 月

出版社(等)名

Spandidos publications

Peer Review

無

(備考) 論文要旨は、日本語で 1,500 字以内にまとめてください。